

## 令和2年度 日本薬局方教科担当教員会議（メール会議）議事録

- 配信日 : 令和2年12月2日（水）
- 会議期間 : 令和2年12月2日（水）～令和3年2月5日（金）
- 添付資料 : 令和2年度 日本薬局方教科担当教員会議（メール会議）次第
  - 資料1 第105回薬剤師国家試験出題内容について（分析化学・有機化学系分野）
  - 資料2 第105回薬剤師国家試験出題内容について（薬剤系分野）
  - 薬学教育モデル・コアカリキュラムに関するアンケート（Excelファイル）

### 〈報告事項〉

- ・ 令和2年度 日本薬局方教科担当教員会議 現地開催中止について—配信メールより抜粋

昨年度の教員会議におきまして、令和2年度の本会議を7月10日（金）、北海道医療大学 札幌サテライトキャンパスにて開催と予告いたしましたが、この度の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会議の開催について慎重に検討させていただきました結果、7月の札幌での開催は行わず、薬学教育協議会の許可を得まして「メール会議」にて実施する方向で進めさせていただくこととしました。

（4月21日付のメールにて、前年度本会議委員の先生方に現地開催中止のご連絡をいたしました）。

今年度の会議におきましては、特別講演講師として医薬品医療機器総合機構 審査マネジメント部 医薬品基準課（現 厚生労働省） 安藤 剛先生をお招きしてご講演いただく予定でしたが、メール会議に変更となりましたため、安藤 剛先生には令和3年度の本会議（委員長 福山大学薬学部 井上裕文 先生）においてご講演いただくこととなりました。

- ・ 日本薬学会 第139年会（千葉）一般シンポジウム S22 「薬学教育と日本薬局方、その未来に向けて」の Symposium Review が、**薬学雑誌**，140巻（6号），757-788（2020）に掲載された。

### 〈協議事項〉

- 1) 第105回薬剤師国家試験出題内容について

分析化学・有機化学系分野については、緒方正裕先生（東京薬科大学）、薬剤系分野については、荻原琢男先生（高崎健康福祉大学）に、日本薬局方に関連した出題について解説を含めた資料を作成していただいた（資料1、2）。各資料に対して教科担当の先生方に Google Form を通して質問、意見等を入力していただき（入力期間：12月2日～12月23日）、緒方先生及び荻原先生方にコメントをいただいた後、配信し、再度、質問及び意見等をいただいた（協議期間：令和3年1月14日～2月5日、資料別添）。

- 2) 「薬学教育モデル・コアカリキュラムに関するアンケート」及び結果報告

今回のコアカリキュラム改訂の際に活用いただくことを目的に、コアカリキュラムに関する以下の3項目についてアンケート調査を行い、Google Form あるいはメール添付により回答いただいた（入力期間：12月2日～12月23日、協議期間：1月14日～2月5日）。回答者数は71名（資料別添）。

- 1) 現在のコアカリキュラム全体を通して、教えるべき内容は網羅されているでしょうか。5段階評価で該当の番号をご記入ください。2) 今後、コアカリキュラムに含めた方がよいと思われる内容、

除いた方がよいと思われる内容、表現を変更した方がよいと思われる内容についてご意見をご記入ください。 3) その他コアカリキュラムに関するご意見をご記入ください。

### 3) 令和4年度委員長校の選出

- ・次年度（令和3年度）の委員長校は、令和元年度の本会議において、福山大学薬学部 井上裕文先生に既に決定。
- ・次々年度（令和4年度）の委員長校の選出については例年、会議会場において委員の先生方にお諮りしておりましたが、今年度はメール会議に変更となったことから、次年度委員長の井上先生より令和4年度の委員長校をご推薦いただいた。岐阜薬科大学 北市清幸先生をご推薦いただき、本メール会議において承認された。

### 4) その他

本教員会議における協議内容等についての要望が2件あった。

以上